様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	特別支援教育専攻／津田 芳見

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

①障害のある子ども（病弱者・肢体不自由者）に関して、教育をするために必要な心理・生理・病理が中心となる。その概念（病弱者とはどのような疾患か）から理解させることが必要である。診断、治療、認知機能、医学的支援、医療と教育との連携などについて理解が深められるように　授業に取り組む。
②学生が主体的に取り組めるようにグループワークや課題演習を授業に取り入れ、授業改善を図る。
③成績評価については、授業態度、積極性、レポート、小テストなどから、知識の習得、探究心、積極性、情報収集力、まとめる力などを総合的に評価したい。

2．点検・評価

①後期の科目については、障害のある子ども（肢体不自由）に関して、教育をするために必要な心理・生理・病理が中心となる。その概念（肢体不自由とはどのような疾患か）から理解させることが必要である。基礎となる、神経系運動系、心理の発達、認知機能、医学的支援、福祉制度・器具などについて理解が深められるように　授業に取り組んだ。

②学生が主体的に取り組めるようにグループワークや課題演習を授業に取り入れ、授業改善を図り、学生の積極的参加、グループ間での協力関係など積極性がみられた。
③成績評価については、出席状況、授業態度、積極性、レポート、などから、知識の習得、探究心、積極性、情報収集力、まとめる力などを総合的に評価した。
④グループ学習では、特に発表したテーマについて、討議を深めることを課題としており、これにより、探究的態度、まとめる力などが、養われた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学生の学生生活、進路、悩みなどの相談について、丁寧に相談に応じる。
②発達障害の診断、治療、認知機能、医学的支援、などについて先進地、先行研究などから情報をえる。
③心身健康センターと連携してが学生の健康問題を支援する。
④連合大学院にて、博士課程の学生の指導を行う。

2．点検・評価

①学生の学生生活、進路、悩みなどの相談についは、ゼミの中などでその都度丁寧に相談に応じた。
②院生についても、研究を進める上で、フィールドとの調整が、必要なことが、多く出現し、関係機関関係者との連携調整に努めた。
③発達障害の診断、治療、認知機能、医学的支援、などについて学内プロジェクトに参加し研究した。学内では、潜在しているニーズの顕在化すること、学内での啓発広報が必要と考えられる結果であった。
④心身健康センターと連携してが学生の健康問題を支援し、幅広く相談などに応じている。
⑤連合大学院にて、博士課程の学生の指導を行い、博士審査会の主査を行い、年度内に、論文博士1名、課程博士1名の主査を務めた。
⑥連合大学院にて博士課程の研究生1名を指導し、研究を進めている。また、新たに1名連合の受験生を指導中である。2名とも引き続き指導する予定である。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

①学内外の研究助成金に応募する。
②研究テーマである「発達障害」に関する地域連携システム、認知機能に関する研究を発展させまとめて、学会誌に投稿する。
③院生を指導し、学会への発表、論文発表を行う。
④発達障害の診断、治療、認知機能、医学的支援、などについて先進地、先行研究などから情報をえる。

2．点検・評価

①学内研究助成金に共同研究者として参加した。
②平成特別経費プロジェクト（附属特別支援学校） に大学教員として参加し、推進研究している。
③学外研究助成金文部科学省に共同研究者として、応募した。
④学外研究助成金（厚生労働省）に共同研究者として応募した。
⑤院生を指導し、リハビリテーション工学学会への発表、を行った。
⑥発達障害について、日本磁気共鳴学会にて、市民公開講座にて、発表を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①25年度は学部入試委員会委員として、本学の運営にかかわる予定である。
②心身健康センター（精神保健相談員）として、学生の健康相談にかかわり、本学の運営に貢献する。
③衛生管理委員会委員として本学の運営に貢献する予定である。

2. 点検・評価

①25年度は学部入試委員会委員総括班副班長として、本学の運営にかかわり、堅実な運営に努力した。
②心身健康センター（精神保健相談員）として、学生の健康相談にかかわり、本学の運営に貢献した。学生の中で、コミュニケーションや社会性の不足がうかがわれることが多くなっている。
③衛生管理委員会委員として本学の運営に貢献している。インフルエンザの助成が実施されたことは、非常に危機管理的な側面からも、成果であったと考える。風疹についても検討をお願いしたい。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

年度目標
①付属校との連携は、特別経費プロジェクトの継続事業として、大学特別支援教育専攻から参加協力する。
　また、実習をとおして、求めに応じ助言協力など行う。
②専門機関である徳島県発達障害支援センター及び支援ゾーンと引き続き、研究等協力をしていく予定である。
③徳島県障害福祉課と連携し、各種委員会の委員などを務めることにより、協力関係を築く予定である。
④鳴門市とも、保健福祉の関連にて協力関係を築く予定である。

2. 点検・評価

①付属校との連携は、特別経費プロジェクトの継続事業として、大学特別支援教育専攻から参加協力し、成果を上げつつある。
　また、実習をとおして、求めに応じ助言協力など行った。常に協力関係を気付く働き掛けが重要であると認識している。
②専門機関である徳島県発達障害支援センター及び支援ゾーンと引き続き、研究等協力をしており、従事者研修会を共催を行った。盛況であった。
③徳島県障害福祉課と連携し、各種委員会の委員などを務めることにより、協力関係を築き、情報交換などがなされた。
④鳴門市とも、保健福祉の関連にて鳴門市自立支援協議会会長を務め、保健医療・福祉・教育との地域連携の構築に貢献した。
⑤児童相談所に協力し、療育手帳の発行に関与してきた。児童相談所は、本学とも関係が深く、修了者が多く就職している。また、特別支援教育との関連は特に密接であるため、医師として、要請には応じたいと考えている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

特別支援教育は障害のある児童生徒を対象とするため、医学や福祉との関連が非常に強い領域です。そのため、児童相談所や、鳴門市福祉課、県発達障害センターなどとの協力関係を重要と考え、療育手帳の発行、自立支援会議会長などを務めております。これらは、教育との関係が、非常に密接であり、本学教員が参加することは、社会的な意義があると考えております。